
OB 通信

2008 年 No.7

(2008.10)

第 30 回北日本学生陸上競技対校選手権大会

- ・ 女子七種競技で菊地(3)が 3741 点の部記録樹立

第 16 回東北学生駅伝対校選手権大会

- ・ 男子第 2 位、女子第 5 位
- ・ 男子の部で平(3)が 4 区、齋藤(4)が 5 区で区間賞
- ・ 女子の部で大淵(4)、永井(4)、小海(2)が東北学連全女選抜メンバー入り

第 23 回国公立 23 大学対校陸上競技大会

- ・ 男子ハンマー投げで今泉(3)が 3 位入賞

第 37 回東北学生陸上競技選手権大会

- ・ 大淵(4)が女子 1500m と 5000m で東北大歴代 2 位にランクイン
-

～目次～

・ 第 30 回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2 ページ
・ 第 16 回東北学生駅伝対校選手権大会	3～7 ページ
・ 第 23 回国公立 23 大学対校陸上競技大会	8～17 ページ
・ 第 37 回東北学生陸上競技選手権大会	18 ページ
・ 第 34 回 OB 対現役対抗戦	19 ページ
・ 自己記録更新者一覧	20～21 ページ
・ 今後の予定	22 ページ
・ 編集後記	22 ページ

仲秋の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 今号では、主に第 16 回東北学生駅伝対校選手権大会や第 23 回国公立 23 大学対校陸上競技大会の結果をお伝えいたします。

第 30 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(8/15,16) 於 新潟市営陸上競場

この大会では、女子七種競技で菊地亜加里(3)が 3741 点となる部記録を樹立しました。

■七種競技								
氏名(学年)	100mH	走高跳	砲丸投	200m	走幅跳	やり投	800m	順位
	(風)			(風)	(風)			
菊地 亜加里(3)	17"08	1m40	7m71	27"95	5m14	30m41	2'42"53	4位
	(-1.3)			(-1.3)	(+1.9)			
得点	587	512	381	635	598	481	544	
累計	587	1099	1480	2155	2713	3197	3741	部記録

この他にも田中裕志(4)が男子 200m で 22"39(+1.7)の自己ベストをマークしました。

#第16回東北学生駅伝対校選手権大会(9/23) 於 白鷹町

男子の部

本大会は、11月に行われる秩父宮賜杯第40回全日本大学駅伝対校選手権大会(以下全日)の選考会を兼ねており、優勝チームのみが東北地区代表校となります。今年も、駅伝方式8区間で競技が行われました。

東北大学は惜しくも全日出場権を獲得できず2位となりました。優勝は去年に引き続き東北福祉大学。4区、5区では平(3)、斎藤(4)が区間賞の走りで福祉大との差を縮めましたが捉えきれず、福祉大との差は最終的に2分21秒でした。

しかし、去年よりも福祉大との差は縮まりました。来年は今年走ったメンバーの多くが残るため、全日出場が期待されます。

各区間を走った選手からコメントを頂きました。

第一区 大場直樹

各大学のスピードランナーが集まった一区は、例年になくハイペースでの展開になりました。スタート直後から福祉大が身体一つ分前に出て、そのあとを集団で追う展開になりました。3km過ぎに、福祉大が少しペースを上げ、それに富士大が良い反応についていき、3位集団は東北大、東北学院大に絞られました。5km前後で、富士大が福祉大に振り切られ、学院大もペースを上げ、1位から4位がほぼ等間隔に並びました。その後東北大は、下りで一時学院大に追いつくも、最後の上りでまた離され、1位の福祉大とはおよそ50秒差で第二区に襷を渡すことになりました。

第二区 川口亮平

昨年と同じ2区を走りました。4位で襷を受け、前を行く2チームが見える状況でスタートしました。序盤は予定したペースを維持しながら前を追っていきましたが、2.5キロくらいで後ろから追いついてきた福島大の選手についていったためペースが上がりました。5キロの通過は15分45秒で目標にしていた区間21分台の記録も狙えそうでしたが、そこから2キロで急激に足が止まってしまい結局昨年の自分の記録より1秒遅い22分50秒のタイムで3区の小林に襷をつなぎました。先頭の東北福祉大を追うためにも前半からある程度速いペースで入るつもりだったのですが、ラストが自分で思っていた以上に力が残っていませんでした。序盤でチームに勢いを乗せるような走りができず、申し訳ないです。当日は、多くの応援やサポートをいただきありがとうございました。

第三区 小林和也

昨年と同じ3区を任されましたが、1週間前から走りにキレがなくとても不安でした。しかし、当日は感覚が戻っており、レース前にもかかわらずホッとしました。レースの内容についてですが、川口から襷を受け取ったときは予定より後ろでしたが自分の走りをするのを意識して、最初の1kmでペースを確認してからは感覚だけで走り、前の選手との距離を

3~5km 付近の坂で差を詰めました。しかし、その後は付かず離れずのままで平に襷を託しました。学院に追いついて中継したかったのですが、自分の走りが出来たことは嬉しかったです。最後になりますが、サポートや応援のおかげであそこまで頑張れたと思っています。本当にありがとうございました。

第四区 平聖也

僕は昨年に続いて 4 区を走らせていただきました。4 区はエース区間を次区に控える重要なつなぎの区間だと考え、先頭が見える位置で純先輩に渡すことを目標に走りました。本番では小林さんが前を走る学院大・福島大の見える位置で襷をもってきてくれたので、前を追いながら走ることができました。しかし結局福祉大は視界に捉えられず、タイムも昨年とほぼ同じで、力不足を痛感しました。ケガをせず継続的な練習を重ねることで土台からしっかり積み上げ直していく必要があると思いました。まぐれのような区間賞で、数秒ながら福祉大との差を詰めることができたのは本当に皆さんの応援のおかげだと思っています。ありがとうございました。

第五区 斎藤純

第 5 区(12.0km)を走りました。前走者・平の区間賞の走りの勢いそのままに勢い良く中継所を飛び出すと、3km 地点までに前を走る福島大を捉え、中継点では 2 分余りあった先頭との差も一気に 1 分 30 秒ほどに縮めます。1 周目を終えた段階では先頭と 1 分 26 秒差の単独 2 位に浮上。逆転を狙って追い上げを見せるも、序盤のオーバーペースからか 2 周目に入ってからはややペースが落ち始めます。しかし、残り 3km から下りでもう一度ギアを入れ直すと、一時は開きかけた先頭との差を再び 20 秒余り詰める猛追を見せ、宣言通りの区間賞も獲得し、トップと 1 分 13 秒差の 2 位で襷を母校の後輩でもある箭内に託しました。



写真：5 区の斎藤(4)

第六区 箭内正輝

6区を走らせていただきました。初出場による不安や緊張もありましたが、落ち着いて自分の走りをする事を目標に臨みました。高校の先輩でもある純先輩から襷をもらいスタート。1kmの入りは順調でしたがその後はペースが上がらず苦しい走りになりました。後半は下りから切り替えたものの、前半のスローペースに焦ってしまい目標としていた走りはできませんでした。結果的に4区からの追い上げる流れを活かせず差をつけられてしまい、自分の力不足を強く感じました。この思いを忘れず、また来年に向けて頑張っていこうと思います。当日は大勢の応援、サポートどうもありがとうございました。

第七区 林亮輔

昨年度の駅伝が終わり、来年の駅伝は必ず走りたいと強く思い、練習を重ねて今年度7区を走ることができました。上り調子であったこと、当日のほどよい緊張感、前からのいい流れと自分も好タイムを期待していました。しかしいざ走ると前半は少し焦り、中盤は上りと向かい風で苦しく、最後は意地だけで何とかアンカーに襷を繋ぐレース展開で、先頭とはだいぶ離され、後続にはだいぶ差を詰められるというとても悔しい結果に終わりました。駅伝メンバーには何とか入ったものの他校と勝負するにはもう少し走力と経験が足りませんでした。足りない面は補い、またこの悔しさを忘れずに今後も頑張ります。応援・サポート等ありがとうございました。



写真：7区のエ

第八区 島田健作

「なんとか逆転するぞ」と自分に言い聞かせて走りだしました。1位の背中が見えるように、気持ち突っ込んだ1周目の通過は21'58"でほぼ予定通りでしたが、前を走る東北福祉大の姿は見えませんでした。予想以上に疲れて、足が非常に重くなってしまった2周目はペースダウンを抑えることができず、走り込み不足を痛感しました。「長い、ゴールまでが遠い」と思ってしまい、集中力にも欠けていました。それでも「次の応援のところまで頑張ろう」と思いながら、前を目指して走り続けることができました。結果、2位を決めてしまう悔しさの残るゴールとなりましたが、今までに受けたことのない大声援で、大変心強く、自分は本当に幸せ者だと感じました。どうもありがとうございました。



写真：8区のエ

2位	東北大学 (71.0km)	一区(8.5km) 大場直樹	二区(7.0km) 川口亮平	三区(8.5km) 小林和也	四区(7.0km) 平聖也
	3:49:41	27:09[4]	49:54[4]	1:17:32[4]	1:39:58[3]
		27:09(4)	22:50(4)	27:33(3)	22:26(1)
		五区(12.0km) 斎藤純	六区(7.0km) 箭内正輝	七区(7.0km) 林亮輔	八区(14.0km) 島田健作
		2:19:22[2]	2:42:06[2]	3:04:52[2]	3:49:41[2]
		39:24(1)	22:44(2)	22:46(3)	44:49(2)



写真：区間賞を受賞した5区斎藤(左)と4区平(右)

女子の部

本大会は、10月に行われる第26回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(以下全女)選考会を兼ねており、優勝及び準優勝したチームが東北地区代表校となります。5kmタイムレースで、上位6名によるタイム集計方式で競技が行われました。

女子団体の部には例年のように5校が参加しました。東北福祉大学が有力視されており、その実力通り優勝すると、もう一行の昨年度全女出場権である福島大学も3位以下を大きく引き離す1°50'00"切りのタイムで準優勝しました。

レースはスローペースで始まり、大集団のままはじめの1kmが終わる。しかし先頭に行く福島大の古瀬選手が1人独走態勢に入ると、次第に2位グループが形成されていく。東北福祉大の選手が隊列を組み2位グループを引っ張り始めると、東北大の選手勢もそれについて一時2位グループ先頭に立つなど積極的に前へと攻めの走りを展開する。

大淵(4)、小海(2)、が惜しくも17分台に届かなかったものの、18分1桁台で10位、11位でゴール。この時点ですでに東北福祉大が上位を占め、優勝を確実なものとしていた。その後永井(4)、千葉(2)も18分台でゴールしたが、その後20分を超えて佐藤(1)、須藤(3)、荒木(1)、酒巻(4)がフィニッシュし無事にレースが終了した。

昨年に引き続き団体5位となり、他大学とのタイム差も実に厳しいものとなった。これからの課題が見えてくる結果になってしまったが、一方で今年は永井が3年連続、さらに大淵、小海の3名が全女の東北学連選抜メンバー入りしチームに追い風をもたらすことができた。

氏名	大学名	記録 (5.0km)	順位	上位6名合計記録	合計順位
大淵 真波	東北大	18:01	10		
小海 麻美	東北大	18:02	11		
永井 瑞希	東北大	18:19	19		
千葉 絵里子	東北大	18:47	30		
佐藤 仁美	東北大	20:45	53		
須藤 彰子	東北大	21:36	59	1:5530	5
荒木 佳那子	東北大	21:49	60		
酒巻 貴子	東北大	24:00	62		



集合写真

*応援にきてくださった先輩方(敬称略)

伊藤繁和 奥津多加志 小平圭一 細川淳一 山家翔 渡辺翔太郎 笹野佳彦 鈴木英明
 鈴木義教 永橋浩二 松本洋 青柳光裕 五十嵐さやか 稲葉清文 斎藤春恵
 菅井裕之 中嶋啓太 長谷川翔平 原田貴正 八木洋光

多くの応援、ありがとうございました。

第 23 回国公立 23 大学対校陸上競技大会(9/26~28) 於 草薙陸上競技場

七大戦後初めての対校戦、23 大戦が静岡県の草薙陸上競技場にて開催されました。初日から風が強く、時々雨に見舞われたこともありましたが、良いコンディションとは言えませんでした。男子は総合 8 位に入賞することができました。

一日目は、男子やり投げに出場した杉本(1)が 3 位で表彰台。田中(4)が男子 400m で 4 位。鈴木一輝(1)が男子走り幅跳びで 7 位など、一年生の活躍が光りました。また、女子 1500m では小海(2)、千葉(2)が決勝に進みました。

二日目は今泉(3)が男子ハンマー投げで 3 位、男子砲丸投げで 4 位に入り 11 点をもたらし、総合得点に大きく貢献しました。短距離新 PC の岩崎(2)は男子 110mH で 6 位入賞。男子三段跳びでは長谷川(M1)が 8 位入賞し、男子 4×400mR ではバトンミスなどがありましたが順当に決勝に進出しました。

三日目は、男子棒高跳びで白井(3)が 4 位に。男子 4×400mR は鈴木義教(M2)の好走もあり 5 位に入りました。

男子十種競技 100m

2-7 4 着 遠藤 智之(2) 12"74 (-6.3)

若干アップ不足が心配されたが、スタートから前半の加速はまずまず。強い向かい風の影響か後半失速し 4 着に沈む。専門は短長だが、同じ短距離種目としては今一つであった。

男子 400m 予選

3-4 1 着 田中 裕志(4) 50"45

4-5 2 着 鈴木 義教(M2) 51"07

7-6 2 着 中嶋 啓太(M1) 50"93

田中は前半から力強く加速し、200m でトップに。後半はリラックスした走りそのまま 1 着でフィニッシュ。

鈴木は、怪我の影響が心配されたが、終始リラックスした走りラスト 100m では周りの選手の様子を窺う余裕を見せ 2 着に。

中嶋はスタートから快調に飛ばして先頭に立つが、ホームストレート入り口辺りで内側の東学大に抜かれる。最後は落ち気味であったが、意地で食らいつき 2 着でゴール。

3 人とも準決勝にコマを進めた。

女子 1500m 予選

1 組 6 着 千葉絵里子(2) 5'06"30

2 組 5 着 小海 麻美(2) 5'10"08

5000m を本職とする 2 人がサブ種目での決勝を駆け臨んだ。

1 組目の千葉はスタート後すぐに縦長になる集団前方につけるが、800m を過ぎ前の選手のペースアップについていけず後退。ラストは後ろを追われながらスパートし 6 着。

2 組目小海は集団後方からスタートし、徐々に順位を上げ 3 番手につける。800m 過ぎに集団がばらけて 5 番手に後退するも、そのままキープしゴール。

男子 1500m 予選

1 組 10 着 尾形 洋平(1) 4'20"78

2 組 10 着 本間 亮太(2) 4'12"40

3 組 15 着 早坂 達也(2) 4'35"57

1 組目はスローペースでレースが進み、尾形は集団後方につける。400m 過ぎから後退するもラスト 1 周でペースアップし追い上げてゴール。

2 組日本間は集団前方で積極的にレースを進める。後半苦しくなるがラスト1周は後続選手とともに前を追い 10 着でゴール。4'10"切りが続出するハイペースな組であった。

3 組目早坂は 200m で先頭に立つも、800m 過ぎにペースが落ち後退、懸命に前を追うもペースを上げられないままゴール。

男子 4×100mR

1-3 4 着 44"45

鈴木一輝(1)-岩崎(2)-瀧澤(2)-新沼(2)

富樫(2)等の欠場によりメンバーを一新してのレース。3 走までは専門の選手ではないが、走力は十分にあった。4 走新沼は対校戦短距離種目初出場。競り合いになったときにどう勝負するか。

鈴木スタートは反応が良かったものの、少し硬くなった。その後は前から離れることなく岩崎にスムーズにバトンパス。

岩崎はうまく加速したが、他大学の 2 走の走力が勝り上位チームに追いつくことができなかった。3 走瀧澤も同じような展開。

問題は 3 走・4 走間でのバトンパス。4 走新沼が早く出てしまい、テイクオーバーゾーン手前で減速し、危機を脱する。その後 8 レーンの追い上げにあうが振り切ってフィニッシュ。

急造チームで 43 秒台を目指したがミスもあり及ばなかった。やはり短短選手の強化及び加入が望まれる。

男子 400m 準決勝

1-6 棄権 鈴木 義教(M2)

2-6 2 着 田中 裕志(3) 50"47

3-4 5 着 中嶋 啓太(M1) 51"53

田中は順当に予選を勝ち進み、準決勝でもその走りが期待された。

開始早々7 レーンを捉え、快調な滑り出し。バックストレートでもスピードを維持し、ホームにきた時には 2 番手。ホームの風が強く、トップの選手の足が止まり追いつけそうになるが及ばず 2 着でゴール。

中嶋は今シーズン自己ベストの更新が著しい。今回も 49 秒台入りを目指した。

スタートから 200m まではスムーズに加速し、300m に入った時点で 3 番手。しかし残り 70m と 50m で 2 人に抜かれ 5 着。

今回は田中のみ決勝進出だが、短長は短短に比べ層が厚い。来年は 3 人決勝進出したい。

女子 1500m 決勝

9位 千葉絵里子 (2) 5'08"17

11位 小海 麻美 (2) 5'14"46

予選 2 時間後の決勝レースであった。スタート直後に 3 人が飛び出し 4 位争いの 2 位集団ができ、千葉は集団前方、小海は最後尾につける。後半苦しくなる中、ラスト 1 周で千葉はペースダウンし 9 着。小海はスパートを見せるも前との差は大きく 11 着。

突風の中 4'30 秒台が続出するハイレベルな試合であったが、2 人とも 5 分の壁が厚かった。

男子 400m 決勝

4 位 田中 裕志(4) 49"16

準決勝を 6 番のタイムで通過したが 8 レーンにされ少々がっかりした様子だった。しかし去年の七大戦ではアウトレーンながら 4 位になった経験がある。今回もその勝負強さで優勝してほしいところ。

前半から飛ばしたが 150m で 7 レーンの選

手に追いつかれる。粘りの走りで食い下がり、前とは離れない。300mを3番で通過。そこから1人に抜かれ50mくらい並走するも最後かわされ4位に終わった。

去年に比べ40秒台が安定して出るようになった。冬にしっかり練習を積めば47秒台と全カレも見えてくるのでは。まずは次の総体でどれくらい勝負できるか。

男子10000m 決勝

2組 10着 鈴木 雄輔(3) 36'19"68

11着 箭内 正輝(2) 36'56"52

大学2回目のレースとなる箭内と、今年白鷹メンバー入りした鈴木が出場した。

スタート直後から箭内が先頭に立ち積極的にレースを進め単独トップになる。鈴木は第2集団でレースを進めるも、集団がばらけはじめると前につけず追う展開に。3000m過ぎから箭内が後退し始め、4000m過ぎて鈴木にかわされる。両者とも後半は完全に足が止まり、風が強くて苦しいレースとなった。

男子十種競技 400m

2-7 3着 遠藤 智之(2) 52"84

あの七大戦優勝メンバーの一人。今回は混成競技での400mだが、疲れ知らずだけに期待された。朝から続いていたホームの向かい風も多少やみ、昼から走りやすい環境。

バックストレートで追い風に乗りたいところだがスタートの加速力があまり見られず、すぐに上体が起きてしまった。バックからは加速し200~300mの走りはスムーズ。ラストは力みが見られ伸びを欠いた。

中間走は良かったのでスタートを改善すればラストも伸びると思われる。

男子十種競技 110mH

2-1 遠藤 智之(2) 23"42 (+2.6)

110mH初挑戦。練習ではハードリングにぎこちなさがみられた。スタートの反応はよかったがハードル前で急減速。2台目をぶつけるが体勢は保った。ハードルの技術に課題が残る結果となった。

男子110mH 予選

1-6 3着 一ノ倉 聖(2) 16"11(+0.5)

2-7 5着 永井 雅人(D1) 15"95(+1.5)

5-6 3着 岩崎 辰哉(2) 15"31(-0.3)

一ノ倉はリズムよくハードルをとび、中盤まで3番手。後半2番手を追い詰め競り合いながらゴール。2着とは0"06差であった。

永井は前半、横一線状態で中盤まで2~5番の中で争う。スムーズにハードルをとんだが最後に遅れ5着でフィニッシュ。

岩崎の組は3人が棄権し、5人でのレース。スタートをしっかり決め前半から飛び出す。2番くらいを維持していたが中盤インコースの選手に抜かれ、粘るものの3着でゴール。決勝へは岩崎ただ一人の進出となった。

男子200m 予選

3-2 4着 佐々木翔平(1) 23"50 (-1.5)

6-7 4着 鈴木 一輝(1) 22"91 (-1.6)

8-2 3着 田中 裕志(4) 23"24 (-2.2)

佐々木は前半こそスピードに乗った感じはしたが150m付近で失速し、前と徐々に差が開き4着となった。

前日の走り幅跳びで7位に入った鈴木は太ももに若干不安を抱えてのスタート。前半から飛ばし、100mまではトップ争いに加われそうな位置であったが150m付近で離さ

れ4着でフィニッシュ。

田中は昨日の400mで4位に入った勢いで22秒台を出したいところ。全体的にイーブンペースで、スピードが上がることも落ちることもないレース内容であった。

結果、鈴木と田中が準決勝に進んだ。鈴木は向い風ながら22秒台を出し、今後の活躍も期待できる。田中は向い風の影響と400mの疲れもあってか、若干精彩を欠いた。

女子 200m 予選

2-8 5着 須藤 彰子(3) 30"32 (-1.7)

3-8 6着 土肥加奈世(1) 29"54 (-4.6)

須藤は中距離専門だが、短距離種目にも挑戦している。レース内容はまずまずだったが、やはり他との実力の差を見せつけられた。

土肥は大学から陸上を再開、ブランクはあったがそれなりに走れるようになった。100mまでは内側の選手と競っていたが150mで失速し離され6着。伸び代はかなりありそうなので今後の成長が楽しみである。

男子 3000mSC 決勝

1組 18着 早坂 達也(2) 10'43"74

2組 8着 尾形 洋平(1) 10'27"42

14着 工藤 佑馬(1) 11'09"86

1組目早坂は後方でスタートし障害を無難に越えていくが、水濠で大きく後れをとる。先頭集団のペースアップについていけず苦しい単独走となった。早坂はこの競技は初めて。水濠に苦労していたようであった。

2組目尾形は4~6番手、工藤は後方につけてレースを進めるが2000m過ぎから尾形は後続選手にかわされるも失速を抑えた。工藤は急激に失速しフィニッシュ。

女子 5000m 決勝

10位 小海 麻美(2) 18'35"60

13位 千葉絵里子(2) 19'10"31

先頭3人が飛び出すも、スローな展開となり小海が第2集団をひっぱり、千葉は集団中ほどにつける。2人とも3000mまではペースをきっちり守るが、その後千葉は集団から離れ大きく失速。小海も集団から徐々に離れ苦しくなる。思うようにスパートがきかず小海10着、千葉13着でフィニッシュ。

悪コンディションと疲労の中、小海は18分35秒の安定した走りをみせた。千葉も今後のステップアップに期待したい。

男子 110mH 決勝

6位 岩崎 辰哉(2) 15"75 (-3.0)

昨年のこの大会も決勝に残った岩崎。今年もきっちり決勝に残ってきた。午前中は追い風だったがこの時間は強い向かい風に変わった。タイムより勝負優先と思われた。

2レーンからのスタート。3台目までは2番手くらいだったが、そこから引き離され60mからは6番手あたりに後退しそのままゴール。

岩崎は向かい風に弱いらしく、決勝のタイムは振るわなかった。しかし予選は大学ベストを出している。本人も復調の兆しが見えてきているようなので来年に期待が持てる。

男子 200m 準決勝

1-1 8着 田中 裕志(4) 23"87 (-7.1)

3-2 7着 鈴木 一輝(1) 23"58 (-5.9)

田中は前半、前の選手に若干離され、ホームに入ってきたときにもその差が縮まることはなく、そのままゴールし7着。

鈴木は前半積極的に飛ばし前に食らいつく。150m 付近で離され7着でフィニッシュ。

2人とも風に悩まされた。この風ではタイムは仕方ないが、後半失速が見られる。今後は後半離されないように力をつけてほしい。

男子 800m 予選

1組 2着 本間 亮太(2) 2'00"58

好調なスタートを切り、2番手につける。無理なく余裕をもったペースでレースを進める。バックストレートに差し掛かったところで後続を引き離し、トップの選手とともに追い風を利用しグングン加速。ラスト200mでは後方を振り返る余裕も見せ、そのまま1番手の選手とともにゴール。楽々準決勝進出。

女子 800m 予選

2組 8着 荒木佳那子(1) 2'42"75

3組 5着 須藤 彰子(2) 2'34"54

夏に長い距離も踏んできた800m専門の2人が出場した。

2組目の荒木はスタートで出遅れるも、集団の後方につける。後半のペースアップについていけず徐々に失速し、失速をおさえきれず8着となった。

3組目の須藤は良い位置でレースを進める。スローな展開の中で2週目に入りペースを上げるも、他の選手から離される。ラスト50mはスパートをみせ5着となった。

須藤は自己ベストの走りであったが、2人とも十分に戦えず、決勝進出に至らなかった。

女子 4×400mR 予選

2-8 7着 4'38"10

菊地(3)-須藤(3)-飛内(3)-土肥(1)

このメンバーでのマイルリレーは初めて。レース内容は、全員に共通しているが、走力不足である。200mまでに29~31秒くらいかかり、残り100mで全員失速していた。

1走菊地は前半から後ろに追いつかれ200mで完全に置いて行かれた。その後は粘りの走りで2走の須藤につないだ。

2走須藤は火曜日の白鷹の疲れを感じさせない走りを見せたものの、他大学の選手との実力の差は大きく、さらに離された。

3走飛内は苦手のロングスプリントのためか他の選手に大きく引き離された。バトンはつないだものの、前とは30秒以上の差がついていた。

4走土肥は終始一人旅の展開になったが、力走し4人中最速のラップタイムであった。

女子短距離は現状では対校戦で他大学と争うことは困難である。練習の質、量、及び意識の向上が必要であろう。

男子 4×400mR 予選

2-4 1着 3'22"33

瀧澤(2)-中嶋(M1)-柴田(3)-田中(4)

4チームが棄権し、楽な予選となった。そして太陽が出ていないのになぜか全員サングラスをかけるという気合いの入れ様で決勝進出を狙った。

1走瀧澤は最初から飛ばし、かなりハイペースで入った。残り100mで前の横国大に離されるが、スピードを落とすことなくバトンパス。バトンパスでミスがあり若干ロスした。

2走中嶋も積極的に飛ばし2番手につける。300m手前で後続の追い上げにあい3番に落ちるが、離されることなく3走につないだ。

3走柴田は100mで前の二人を抜き去るハイペースで快調に飛ばした。しかし残り100mで一人に抜かれ4走に渡す。

4走田中はさすがの走りで、100mで前を捉え1番手に上がる。そのまま引き離すがホームでスピードが落ち、追い上げられるが振り切り1着でフィニッシュ。



写真：前の群馬大を抜き去る田中(写真左)

男子十種競技 1500m

遠藤 智之(2) 4'43"80

遠藤は最初集団前方でレースを進める。400mは72秒で通過し4番手につけていたが500m過ぎでばらける。ラスト300mからスパートし後続を引き離すが、残り100mで並ばれフィニッシュ。

4分30秒切りを宣言していた遠藤であったが、惜しくも目標には届かなかった。初出場のタイムとしては上出来であろう。

男子 400mH 予選

1-4 3着 柴田 智弘(3) 58"21

2-7 3着 一ノ倉 聖(2) 58"29

前短距離PC柴田。好記録を出した七大戦後初のレースで入賞が期待された。

1台目は先頭で通過し、4台目までは先頭争いをするも5台目で失速。その後も勢いが戻ることはなく3着でフィニッシュ。七大後の練習量の落ちが響いた結果となった。

前日の110mHで実力を出し切れなかった一ノ倉。400mHの練習は十分ではなかったが記録を伸ばしてきた。序盤はためらったのか5番手あたりで入った。5台目付近で一度失速するも、その後持ち前の根性で驚異の追い上げをみせてペースの落ちた他の選手を次々と捕え3着に入る。

男子 800m 準決勝

2-4 3着 本間 亮太(2) 1'59"40

好調のスタートを切り先頭を引っ張る展開。1周目を58秒で通過し先頭をキープする。ラスト300mで上位4人が前に出てスパート。本間も懸命に食らいつき、ホームストレートでは2着争いを演じるも、2着との差0.2秒で3着。自己ベストに届かず、準決勝も9位でタイムでも拾われず決勝進出を逃した。



写真：先頭を引っ張る本間(中央)

男子 100m 予選

2-7 6着 佐々木翔平(1) 11"65 (+3.3)

5-7 4着 鈴木 一輝(1) 11"42 (+3.1)

6-8 5着 一ノ倉 聖(2) 11"77(+3.0)

OP400m、200m では結果がでなかった佐々木。100m で雪辱したいところだが、スタートで置いて行かれた。粘ってなんとか中間で争うも、追い風を生かし切れず6着。

左太ももに不安を抱えるがここまで好調の鈴木。まずまずのスタートを見せるが上位との実力差は大きく、4位争いがやっと。

一ノ倉は400mHのレース後のため、影響が心配された。30~40mまでは集団についていった。しかし後半大きく離され5着でフィニッシュ。

女子 100m 予選

1-2 5着 菊地亜加里(3) 13"74 (+2.0)

3-6 6着 土肥加奈世(1) 14"36 (+0.6)

菊地はスタートはまずまずで30m付近までは先頭集団に食らいつくも、50mから大きく離され5着でゴール。トップスピードの維持が今後の課題であろう。

土肥はスタート一歩目で置いて行かれる。他の選手とは勝負にならなかった。フォーム、体力とも発展途上であるので、今後に期待。

男子 5000m 決勝

1組 21着 箭内 正輝(2) 15'56"06

2組 9着 平 聖也(3) 15'57"37

14着 鈴木 雄輔(3) 16'17"74

1組目の箭内は落ち着いたスタートで集団後方につける。2000m 辺りから徐々に集団から離れ苦しい展開になり、トップとは半周以上の差となる。ラスト1周では前の選手を次々と捉え、追い上げをみせてゴール。

2組目の平は先頭集団に位置取り、先頭を引っ張りながら良いペースを刻み積極的な走りをみせる。途中先頭を譲り先頭集団で踏ん張るが、4000m をすぎて遅れ始め足が止まってしまう。

鈴木は先頭集団と大きく離れた第2集団でレースを進める。後方ではあるが徐々に順位を上げる懸命な走りで14着に入った。

1日目の10000m、白鷹の疲れもある中で実力が発揮できず苦しいレースとなった。

男子 4×400mR 決勝

5位 5レーン 3'20"13

中嶋(M1)-田中(4)-鈴木義教(M2)-柴田(3)

今回は3走に鈴木を起用し、メンバー・走順を入れ替えての決勝。5レーンの好位置で表彰台を狙った。

1走中嶋は100mまでは抑え気味で入った。バックストレートは風の影響か若干の力みが見られた。最後100mはきつい走りになったが4番か5番あたりでバトンパス。

2走田中は200mまでは快調に飛ばし3番手につけた。ここから上げたいところだが、ラストで足が止まり5番くらいでバトンを渡した。

3走鈴木は怪我の影響を感じさせない、いつもの軽やかな走りで250mまで前を追う。そこから一気に前を追い越そうとするが、他大学もねばり団子状態でバトンパス。

4走柴田はコースに立っていた他の選手とぶつかりそうになり、5番でスタート。200mまでは前くらいについていたが300mから徐々に離され5位に終わった。

20秒切りはなかったが、鈴木の好走などもあり昨日の予選から2秒速くなった。部記録は次の機会に持ち越された。

フィールド

男子十種競技走幅跳

遠藤 智之(2) 5m65 (+3.7)

おそらく走幅跳の出場は初。強い追い風だがうまく風にのれば好記録が期待できた。

1本目は足が合わずファール。助走のスタートが走れていない。後半の走りも小さかった。

2本目は助走も改善されたが、踏切が合わず50cm手前から跳んでしまった。このときの記録は5m46(+3.9)。もったいなかった。

3本目は3本中で最も良かった。空中動作を教わればもっと記録が伸びるだろう。

男子やり投決勝

3位 杉本 和志(1) 58m04

やり投げは七大で大会記録を塗り替えた杉本の出場。持ち記録から考えると十分に優勝を狙える位置にいた。他の選手が強風に苦しむ中、杉本も風に悩まされた。1投目はうまく風に乗ったがファール。2投目は58m04を残しエイトを確実にする。その後は風のせいか助走のリズム、振り切りのタイミングが合わずすべてファール。結果も3位となった。

ファールの投擲では60mを超える投擲もあったので、これからは安定して60mを出すことが求められる。

男子十種競技砲丸投

遠藤 智之(2) 6m11

初の砲丸だったためか、砲丸の重さに負けて低調な記録に終わった。十種競技なので記録を残したことは評価できる。

男子走幅跳決勝

7位 鈴木 一輝(1) 6m92 (+4.0)

16位 岩崎 辰哉(2) 6m63(+3.9)

開始直前の雨も競技が始まる頃には止み、気温が下がり、強風ではあったがコンディションが良い中で行われた。

鈴木は1本目で6m92を跳び、好発進。しかしその後は、動きは悪くなかったが若干踏みきり板からはみ出してしまうことを繰り返すすべてファール。7位に入った。

岩崎は1本目ファールするも2本目、3本目と記録を残し、3本目に6m63を跳んだ。最初の2本は踏切が合わなかったものの、最後でしっかりあわせた。

男子十種競技走高跳

遠藤 智之(2) 1m35

試技は1m55からであったが、その高さは跳べないため、審判に申し出てこの高さからの跳躍を認めてもらった。

男子砲丸投決勝

4位 今泉 卓真(3) 12m41

23位 新沼 啓(2) 6m94

今泉は2投目に12m17をだし、3投までで3位に入り決勝進出を決めた。このままいけば表彰台と思われたが、4、5投目に抜かれ4位になった。6投目に記録を更新したが惜しくも抜くことはできなかった。

新沼は完全に砲丸の重さに負けたのと、練習不足が響いて低調な記録に終わった。

今泉は最後に記録を更新したところに逆転する強い意志が感じられた。今後の試合でも意志のこもった投げが期待できそうだ。

男子三段跳決勝

8位 長谷川翔平(M1) 14m16 (-0.6)

11位 瀧澤 翔太(2) 13m65 (-1.1)

13位 岩崎 辰哉(2) 13m48 (-1.1)

3人の出場。瀧澤は七大3位、長谷川は宮城県選手権を制したこともある実力者。上位入賞が期待されていた。

長谷川は1本目で風をうまく読み14m16をマーク。2本目は伸びず3本目をパス。ベストエイトまでの順位は4位。表彰台も見えるかと思われたが、記録は伸びず順位を下げ8位に終わった。着地で若干損をしているようなので、改善すれば記録も伸びるだろう。

瀧澤は1本目をファールし、2本目は途中で助走が間延びして十分なスピードが得られず13m50。3本目はまずまずだったがベストエイトになれず13m65で終了。

岩崎はうまく足を合わせたりしながら記録を残した。2本目は後半で助走の失速がみられたが13m48を跳んだ。

今回は長谷川一人の入賞となった。風が変わる酷なコンディションでの戦いだった。

男子十種競技円盤投

遠藤 智之(2) 17m11

練習不足で低調な記録に終わった。

男子十種競技棒高跳

遠藤 智之(2) 記録なし

残念ながら記録なし。練習はしていたが跳ぶことはできなかった。

男子ハンマー投決勝

3位 今泉 卓真(3) 46m78

今泉は1投目で46m78をマークし上位に入る。2投目はファール。3投目は1投目に迫る投擲をみせたが及ばず3位で決勝に進んだ。決勝では体勢が崩れハンマーに飛ばされる感じだった。4、5投目はファールに終わったのでラストこそと思ったが、右に抜ける感じとなってファール。3位に入った。

今後さらにターンに磨きをかけてほしい。

女子走幅跳決勝

12位 菊地 亜加里(3) 5m02 (+3.9)

菊地は1本目、風に乗って助走したが15cmくらい出てしまいファール。実測で5m10~20くらいは跳んでいたのでも2本目以降の記録に期待がかかった。

2本目の足はぴったりだった。しかし、3歩目くらいからうまく刻めずに跳んでしまった。このときに5m02を跳んだ。

3本目は走り抜けてしまい記録は良くなく、決勝も微妙だった。

結局決勝には行けずに12位であった。

男子十種競技やり投

遠藤 智之(2) 39m29

総合得点 12位 3688点

40mにせまる好投を見せた。

1投目に37m79を投げた。この時点ではまだ助走を生かせていないが振り切りは強さが感じられた。

2投目は1投目の失敗を生かすことができたのか記録を伸ばして39m29を投げた。

3投目はある程度高さはあったが、2投目には及ばなかった。

練習不足の中でもこれだけの記録を残せたことはいい結果であった。

総合点数はそれほど高くないが、最後まで

競技をやりぬき良い経験になったのではないか。最終の1500mでは好走し、応援は盛り上がった。次回は今回記録を残せなかった種目で記録を残し4000点を突破してほしい。

男子円盤投決勝

9位 今泉 卓真(3) 33m74

23位 杉本 和志(1) 20m89

今泉と杉本が出場。今泉は砲丸、ハンマーに続いて入賞したいところ。

今泉は1投目、円盤がぶれて距離が伸びなかった。回転もいつもより力が入っていない感じであった。2投目は回転が足りず伸びなかったが、1投目よりは良い投げができた。3投目では33m74を投げたが、全体に精彩を欠き決勝に進めなかった。

杉本は1投目、2投目をファールし、3投目に20m89を投げた。重心がぶれたり円盤が横にそれたりしていたので、練習次第で飛距離が伸びると思われる。

男子棒高跳決勝

4位 白井 孝明(3) 4m50

白井は4m20を楽勝でクリアした。しかし4m40の1回目に肩が外れる。それでも2回目でクリアし4m50に挑戦する。4m50は1回目、2回目をファールした。高さはあったが、頂点がずれたりした。3回目でなんとか成功したが、4m60は跳躍の途中でやめて跳ぶことはできなかった。4位に入賞し、男子総合8位に大きく貢献した。

男子走高跳決勝

岡本 聖司(4) 記録なし

永井 雅人(D1) 記録なし

走高跳は1m80からスタートした。しかし2人ともこの高さが跳べずに記録なしとなった。踏切が遠かったり近かったり、その他様々な技術面で今回は問題が生じたようだ。

女子三段跳決勝

10位 菊地 亜加里(3) 9m90 (0.0)

三段跳には菊地が出場。今回は自己ベストの10m28に届かなかった。練習不足によるものと思われる。

次回は記録更新に期待したい。

第 37 回東北学生陸上競技選手権大会(9/27~28) 於 宮城野原陸上競技場

今年も国公立 23 大学対校陸上競技大会と同時開催となったため、東北大からの参加者はそれほど多くはありませんでした。その中で大淵(4)が 1500m で 4'52"39、5000m で 17'44"39 をそれぞれ出し、いずれの記録も東北大歴代 2 位の記録となりました。また男子 5000m では小林(M1)が初の 14 分台となる 14' 57" 68 を記録するなど、好記録が生まれました。

男子					
100m	予選 1 組	富樫宏朗(2)	11"38	+3.0	2 着
	予選 5 組	神林啓人(4)	11"71	+1.5	8 着
	予選 9 組	八木洋光(M1)	11"55	+0.1	4 着
	準決勝 2 組	富樫宏朗(2)	11"32	+0.7	7 着
200m	予選 1 組	富樫宏朗(2)	23"47	0.0	4 着
	予選 4 組	八木洋光(M1)	23"33	-0.1	2 着
200m	予選 6 組	神林啓人(4)	23"93	-1.5	4 着
	準決勝 2 組	八木洋光(M1)	23"37	-1.0	7 着
400m	予選 5 組	望月明人(3)	52"02		5 着
	準決勝 1 組	〃	52"50		7 着
1500m	予選 2 組	渡辺貴哉(4)	4' 39"81		12 着
5000m	1 組	林亮輔(4)	15' 45"76		29 位
		渡辺貴哉(4)	16' 12"19		42 位
		相澤直人(4)	16' 29"47		47 位
	2 組	島田健作(4)	15' 13"59		16 位
	3 組	小林和也(M1)	14' 57"68		6 位
		大場直樹(2)	15' 00"70		8 位
10000m		島田健作(4)	31' 28"74		3 位
400mH	予選 1 組	加藤聡(4)	60"54		6 着
4×400mR	予選 1 組	高林(1)-望月-神林-加藤	3' 33"03		5 着
走幅跳		落合裕規(3)	6m06	-0.7	22 位
		染谷拓(4)	5m32	+0.7	30 位
三段跳		染谷拓(4)	記録なし		
十種競技		川口亮平(M1)	3550		2 位
女子					
100m	予選 1 組	酒巻貴子(4)	14"43	+1.5	7 着
1500m		大淵真波(4)	4' 52"39		7 位
5000m		大淵真波(4)	17' 44"39		7 位
		永井瑞希(4)	18' 02"76		12 位

#第34回 OB 対現役対抗戦(10/4) 於 評定河原

今年も昨年に引き続き 10 月の開催となりました。当日は朝からよく晴れ、絶好の陸上日和の中で競技が行われました。

今回は現主将である今泉(3)が優勝を果たし、2 位には一年生ながら鈴木一輝が、3 位には前主将の田中(4)がそれぞれ入りました。その他各種目でも好記録続出し、走高跳で白井(3)は 1m75 を跳び、ギャラリーを大きく沸かせました。また多数の OB の方々に参加していただき、充実した OB 戦となりました。



写真：走高跳をする島田(4)

*OB 戦に参加された OB の方々(敬称略)

小野寺純雄	伊藤弘昌	稲場斉	宮崎鉄男	佐藤源之	真山隆徳	彦坂幸毅
鈴木義教	永橋浩二	松本洋	山内英樹	川口亮平	菅井裕之	中嶋啓太
長谷川翔平	八木洋光					

ご参加いただきありがとうございました。

#自己記録更新者一覧(8/4~9/28)

<男子>

・100m

金子 勇介(3)	12"04(+1.8)	(国公立 23 大学)
富樫 宏朗(2)	11"32(+1.7)	(東北学生陸上競技選手権)

・200m

鈴木 一輝(1)	22"91(-1.6)	(国公立 23 大学)
田中 裕志(4)	22"39(+1.7)	(北日本インカレ)
富樫 宏朗(2)	23"47(0.0)	(東北学生陸上競技選手権)

・400m

望月 明人(3)	52"02	(東北学生陸上競技選手権)
----------	-------	---------------

・5000m

小林 和也(M1)	14'57"68	東北大歴代 11 位	(東北学生陸上競技選手権)
島田 健作(4)	15'13"59	()
林 亮輔(4)	15'45"76	()
渡辺 貴哉(4)	16'12"19	()

・10000m

島田 健作(4)	31'28"74	東北大歴代 9 位	(東北学生陸上競技選手権)
----------	----------	-----------	---------------

・10km

斎藤 純(4)	31'44	東北大歴代4位	(8/31第44回伊達ももの里マラソン)
箭内 正輝(2)	33'28	()

・400mH

一ノ倉 聖(2)	58"29	(国公立 23 大学)
----------	-------	-------------

・三段跳

岩崎 辰哉(2)	13m48	(国公立 23 大学)
----------	-------	-------------

<女子>

・200m

菊地 亜加里(3)	27"95(-1.3)	東北大歴代 6 位(北日本インカレ)
土肥 加奈世(1)	29"54(-4.6)	(国公立 23 大学)

- 800m

須藤 彰子(3)	2'34"54	(国公立 23 大学)	
荒木 佳那子(1)	2'42"75	(")	

- 1500m

大渕 真波(4)	4'52"39	東北大歴代 2 位	(東北学生陸上競技選手権)
佐藤 仁美(1)	5'28"35		(国公立 23 大学)

- 5000m

大渕 真波(4)	17'44"39	東北大歴代 2 位	(東北学生陸上競技選手権)
----------	----------	-----------	---------------

- 10km

小海 麻美(2)	39"06	東北大歴代 5 位	(8/31 第 44 回伊達ももの里マラソン)
----------	-------	-----------	-------------------------

- 100mH

菊地 亜加里(3)	17"08(-1.3)	(北日本インカレ)	
-----------	-------------	-----------	--

- 走幅跳

菊地 亜加里(3)	5m14(+1.9)	東北大歴代 4 位タイ	(北日本インカレ)
-----------	------------	-------------	-----------

- 七種競技

菊地 亜加里(3)	3741 点	東北大歴代 1 位	(北日本インカレ)
-----------	--------	-----------	-----------

#今後の予定

10月13日	第20回出雲全日本大学選抜駅伝競走(出雲)
10月17、18日	第59回東北地区大学総合体育大会陸上競技(あづま)
10月26日	第26回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(仙台)
11月8日	秋保マラソン
11月29日	秋季三秀総会

出雲全日本大学選抜駅伝競走、全日本大学女子駅伝では東北大からはそれぞれ3人ずつ選抜メンバー入りしています。男子は3人とも出走予定です。女子の方は当日走るかどうかはまだ決まっていますが、ぜひ選手たちに熱い声援を送ってください。

#編集後記

今号から副務を引き継ぎました2年の新沼と千葉です。OB、OGの皆様方に現役生の活躍の様子をしっかりと伝えられるよう努力して参りますのでよろしくお願い致します。

白鷹、23大戦も終わりこれから徐々に寒くなる季節です。今年の冬は仙台の冷たい風に苦勞したことを覚えています。今年の冬は暖かくなってほしいと毎年のように願ったりする方もいるのではないのでしょうか。しかし、この冬の厳しい寒さがあるからこそ春の暖かさが嬉しいのだと、この歳になってわかった気がします。これは少し陸上に似ている感じに思えます。

文責 副務 新沼 啓 千葉 絵里子